

1. 科目名 (単位 数)	医療的ケア実践論・演習 (2単位)	3. 科目番号	SNMP4171
2. 授業担当教員	山下 喜代美・吉岡 寛子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 実技		
6. 履修条件・ 他科目との関係	医療的ケア論、医療的ケア実践論を修得していること		
7. 講義概要	医療的ケア実施のための基本研修となる科目である。 喀痰吸引と経管栄養についての手技を学び、実技を行う。 実技の回数は 喀痰吸引：口腔5回以上、鼻腔5回以上 気管カニューレ内部5回以上 経管栄養：胃瘻または腸瘻5回以上、経鼻経管栄養5回以上 また、器具器材の管理や取扱いについても学習し、実施する。 医療的ケアの実施後は、実技試験を実施します。		
8. 学習目標	1. 喀痰吸引を安全に実施できる 2. 経管栄養を安全に実施できる 3. 器具や器材を清潔に取り扱うことができる 4. 喀痰吸引に伴うケアについて説明できる 5. 経管栄養に伴うケアについて説明できる		
9. アサイメント (宿題)及びレポ ート課題	1. 医療的ケアの手順と留意点のまとめ ① 喀痰吸引(鼻腔 口腔 気管カニューレ) ② 経管栄養(経鼻、胃ろう、腸ろう) 実技が確実に実施できるまで、繰り返し練習してください		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版』 【参考書】久良木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』 服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 医療的ケアの実施手順とその根拠を理解しているか 2. 正確に医療的ケアを実施できるか ○評定の方法 [技術の修得度と根拠の理解度を総合して評価する。] 1 技術習得評価 総合点の80% 2 課題 総合点の20%		
12. 受講生への メッセージ	介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。 医療的ケアは、生命に関わる技術です。授業には真剣に取り組み、確実に正確な技術を習得してください。 授業への取り組み姿勢によっては、科目の履修、単位の修得を認めないこともあります。		
13. オフィスアワー	時間割確定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 授業概要の説明 必要物品の取扱いと諸注意	事前学習	喀痰吸引 経管栄養の必要性を復習しておく
		事後学習	呼吸器官 消化器官の構造を復習しておく
第2回	喀痰吸引の技術と留意点 (事前の説明と同意 観察 手技の手順 留意点 事後確認 記録 報告)	事前学習	器具の取り扱いを復習しておく
		事後学習	アサイメント1-①
第3回	喀痰吸引の実践(鼻腔 口腔)	事前学習	喀痰吸引実施時の説明をまとめておく
		事後学習	鼻腔内吸引 口腔内吸引の留意点をまとめておく
第4回	喀痰吸引の実践(鼻腔 口腔)	事前学習	喀痰吸引の手順を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第5回	喀痰吸引の実践(気管カニューレ内)	事前学習	気管カニューレの構造を復習しておく
		事後学習	気管カニューレ内の吸引の留意点をまとめておく
第6回	喀痰吸引の実践(気管カニューレ内)	事前学習	無菌操作法を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第7回	喀痰吸引の実践(鼻腔 口腔 気管カニューレ内)	事前学習	喀痰吸引の技術評価項目を確認しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第8回	喀痰吸引の実践(鼻腔 口腔 気管カニューレ内) 喀痰吸引に伴うケア	事前学習	清潔区域 汚染区域を復習しておく
		事後学習	喀痰を出しやすくする工夫をまとめておく
第9回	経管栄養法の技術と留意点 (事前の説明と同意 観察 手技の手順 留意点 事後確認 記録 報告)	事前学習	経管栄養の必要物品を復習しておく
		事後学習	アサイメント1-②
第10回	経管栄養の実践(経鼻経管栄養法)	事前学習	経管栄養実施時の説明をまとめておく
		事後学習	経鼻経管栄養法の留意点をまとめる
第11回	経管栄養の実践(経鼻経管栄養法)	事前学習	経鼻経管栄養法の技術評価項目を確認しておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第12回	経管栄養の実践(胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養(胃瘻・腸瘻)の手順を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第13回	経管栄養の実践(胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養(胃瘻・腸瘻)の技術評価項目を確認して おく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第14回	経管栄養の実践(経鼻経管栄養法 胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養の実施時の配慮をまとめておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第15回	経管栄養の実践(経鼻経管栄養法 胃瘻 腸瘻) 経管栄養に伴うケア	事前学習	経管栄養のメリット・デメリットを復習しておく
		事後学習	経管栄養に伴うケアをまとめる
16回～30回の授業の中で技術習得評価を実施する。 学生は、喀痰吸引(口腔、鼻腔、気管カニューレ内) 経管栄養(経鼻経管栄養法、胃瘻・腸瘻)の5行為それぞれの技術習得評価			

を受ける。それぞれの行為について、評価項目の中で1つでもできないことがあった場合は、再評価を受けることとなる。  
技術習得評価を受けていない学生は、技術を確実に習得できるよう繰り返し練習をして技術習得評価に臨むこと。

期末試験

16～30回の授業で技術習得評価を実施する。学生は、喀痰吸引（口腔、鼻腔、気管カニューレ内）経管栄養（経鼻経管栄養法、胃瘻・腸瘻）の5行為の技術習得評価を受ける。それぞれの行為で評価項目の中でひとつでもできないことがあった場合は、技術の習得を認めない。